

ケルン教区の紹介

ケルン大司教区の歴史



180年頃

ケルン〔Köln〕英語ではCOLOGNE〔は古代ローマの植民地（ラテン語でCOLONIAは植民地の意味）として始まり、西暦180年にはキリスト信者がいたと言われている。313年コンスタンティヌス皇帝がキリスト教を認めた年に最初の司教（聖マテルヌス）が任命された。

795年

大司教区となり、他の教区をまとめる役割になる。ヒルデボルト大司教はフランク王国のカール大帝の顧問でもあった。

1164年

ライナルド大司教はミラノから3人の博士の遺物をケルンに運び、そのために作られた遺物箱は西洋で最も貴重な文化財となる。

1248年

ケルン大聖堂の建設始まる（今の完成した形になるまで600年かかる）。

1794年

フランス革命軍の占領により、ケルン大司教区は廃止され、その代わりにアーヘン

大司教区が設立された。

1821年

教皇ピオ7世はケルン大司教区を再建する。新しくできたプロイセン王国と緊張した関係が続く。

1930年

地域が広すぎたため、ケルン教区は2つに分けられ、アーヘン教区ができる。

1933年

国家社会主義（ナチズム）の時代にカトリック信者は厳しく扱われる。多くの聖職者と信徒は刑務所や収容所で犠牲となる。

1942年

第2次世界大戦という厳しい世界情勢のなかで任命されたヨーゼフ・フリングス大司教は、大戦直後にケルンの復興作業のために大いに信徒を励まし、教会の再建に力を入れた。

1954年

東京教区との友好関係が始まる。ケルンがまだ苦しい時代に、フリングス枢機卿はもっと必要のある教会を助けるように励ました。1961年にブラジルのフォルタレザ教区とも友好関係を結ぶ。

1993年

四旬節第1主日から教区改革のための大会が始まる。3年にかけて聖職者と信徒が話し合いを続け、小教区のあり方と司牧のあり方全体が見直される。

1998年

祝いと喜びの1年間。ケルン大聖堂設立750周年（8月15日）。ケルンで設立された、第3世界支援組織MISEREOR（ミゼレオール）の40周年。ケルン出身のカルメル会修道女エディット・シュタインが列聖される（10月11日）。

（ケルン教区公式ホームページより抜粋）

マイスナー枢機卿と補佐司教



Joachim Cardinal Meisner (ヨアキム・マイスナー枢機卿) は94代目の大司教。

1933年生まれ、1962年に司祭叙階。1975年にErfurtの補佐司教、1980年にベルリンの大司教、1983年に枢機卿。

1989年2月12日からケルンの大司教。

マイスナー枢機卿の紋章に書かれているのは「SPES NOSTRA FIRMA」 私たちの希望は揺るぎません」(2コリント1,7)

司教総代理 (Dr. Norbert Feldhoff (ノルベルト・フェルトホフ))

ケルン教区全体の運営の責任者。大聖堂参事会員、教皇庁書記。

ケルンの補佐司教

- Dr. Friedhelm Hofmann (フリドヘルム・ホフマン) 担当：北司牧区、終身助祭。
- Manfred Melzer (マンフレド・メルツァー) 担当：中央司牧区、女性活動推進。
- Norbert Trelle (ノルベルト・トレッレ) 担当：南司牧区、外国人司牧。
- Dr. Rainer Woelki (ライナー・ウオルキー) 2003年2月に任命。

ケルン大司教区の情報

ケルン教区はドイツで一番大きなカトリックの教区です。

カトリック信者は2,300,000人（人口の43%）おり、小教区は800、聖堂と小聖堂は1,200あります。

司祭は1,268人（630人は小教区の司牧、約300人が教区本部の仕事や教育、福祉などに携わり、その他は引退）、終身助祭は290人います。

小教区アシスタントは約400人、修道女は2,150人です。

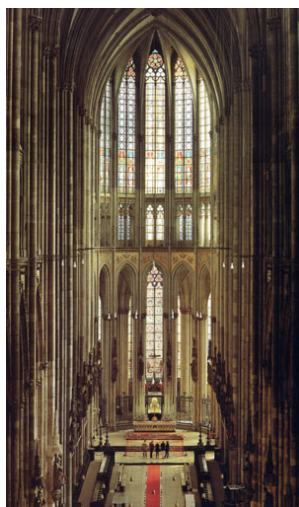
信徒もいろいろな形で盛んに活動しています。

聖体奉仕者、集会司式者は30,000人。聖歌隊のメンバーは30,000人。教理を教えている信徒は20,000人。青年会のリーダーは5,000人。25,000人は福祉活動に関わっています。教会委員会や教区委員会のメンバーのうち20,000人が女性です。

□

（2002年現在）

ケルンの大聖堂



大聖堂は遠くからもすぐわかるケルンの目印。西洋のもっとも荘厳な建築物の一つで、奥行き144m□天井の高さは43.5mで、ゴシックスタイルでもかなり複雑な構造をしています。

基礎は1248年8月15日に据えられ、祭壇は1322年に聖別され、徐々に1520年まで建築が続けられた。しばらく工事が中断されましたが、1842年に最初のゴシックの設計図が発見され工事が再開され、1880年に今の形に完成しました。

24トンの重さがある聖ペトロの鐘は世界で一番大きい回転式の鐘です。1,350㎡もある中世時代の壮麗なステンドグラスも無比の作品です。

祭壇の十字架はヨーロッパのユニークな美術品の中でも群を抜いています。976年にゲロ大司教から大聖堂に寄贈されて、アルプスの北では最も古い大型彫刻作品です。

3人の博士の遺物を収める遺物箱（1180-1220年）は世界的文化財の一つです。3人の博士の遺物は1164年に皇帝フリードリヒ1世がミラノからケルンに移し、それを収めるために素晴らしい金細工作品が作られました。

聖母のチャペルの壁画は1450年ごろのステファン・ロクナー（ケルン派）の秀作。1310年頃に樫の木から彫られた聖歌隊用の席（104席）はドイツでは最大のものです。42点の絵画のある仕切りと、144のゴシック彫刻のある柱もきわめて優雅です。

ケルンの大聖堂は周りにはある12のロマネスク聖堂と共に、中世時代のケルンの繁栄の象徴です。そのために昔からケルンは「北方のローマ」とも言われています。

ウェブサイト

ケルン教区のウェブサイト：<http://www.erzbistum-koeln.de>（ドイツ語）

ケルン大聖堂のウェブサイト：<http://www.koelner-dom.de>（ドイツ語）